

## 令和元年度 第2回広島市感染症対策協議会

令和元年5月20日

- 【日時】 令和元年5月20日(月) 19:00~20:00  
【場所】 広島市役所14階第7会議室  
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、  
堂面 政俊、増田 裕久、藤本 三喜夫、長岡 義晴、松原 啓太、南 心司

### 1 感染症に関する最近の情報《公開》

#### (1) 風しんの発生状況等について (資料1 P1~10)

全国において、2019年第18週(4月29日~5月5日)に風しん患者が33人報告され、第1週からの累積患者報告数は1,434人となった。風しん患者の報告がないのは青森県、徳島県、高知県、宮崎県の4県だけで、全国的に患者が発生しており、広島県においても26人の報告があり、うち11人が本市への報告であった。

また、先天性風しん症候群が第4週に埼玉県で1人(性別:男、母親のワクチン接種歴:有り(回数不明、接種年不明、種類不明)、母親の妊娠中の風しん罹患歴:不明)、第17週に東京都で1人(性別:男、母親のワクチン接種歴:不明、母親の妊娠中の風しん罹患歴:不明)、合計2人報告されている。

本市においては、成人男性に対する風しん抗体検査及び予防接種事業を先月から開始しており、本市ホームページのほか、5月1日号の本市広報紙でも市民周知を図っている。引き続き、風しん抗体検査の受検勧奨に努めていきたい。

(委員意見)

- ・ 先天性風しん症候群の発生を防ぐためにも、引き続き風しん対策に努めていただきたい。

#### (2) 乾燥弱毒生麻しん風しん混合(MR)ワクチンの流通について (資料1 P11~15)

MRワクチンの流通については、2019年2月から4月までの間、患者数が多い東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県、大阪府及び福岡県(以下「7都府県」という。)については、過去の出荷実績の100%に加えて80%を目安に、7都府県以外の道府県については、過去の出荷実績の100%に加えて20%を目安に、第5期定期接種又は任意接種分として、当該市場に追加で出荷するよう国が製造販売業者等に対して要請していた。

今般、2019年5月以降の流通について通知があり、それによると、7都府県については、過去の出荷実績の100%に加えて100%を目安に、7都府県以外の道府県については、2019年5月から7月までの間は過去の出荷実績の100%に加えて50%を、2019年8月以降は7都府県と同様に、過去の出荷実績の100%に加えて100%を目安に、第5期定期接種又は任意接種分として、当該市場に追加で出荷するよう要請されている。

(委員意見)

- ・ ワクチンの流通が安定しているということで、引き続き成人男性に対する風しん抗体検査及び予防接種事業の受検率(接種率)の向上に努めていただきたい。

#### (3) 2019年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について (資料1 P16~34)

平成31年4月18日付け通知「2019年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について」により2019/2020シーズンのワクチン製造株が示された。

昨シーズンから、厚生労働省は季節性インフルエンザワクチン製造株決定のプロセスを見直し、候補株の有効性・生産可能性の観点から製造株を検討する小委員会を新たに

設置した。国立感染症研究所の推奨する複数の株の中から、小委員会で選定し、小委員会の意見を踏まえて健康局長が製造株を決定している。

(委員意見)

- ・ 今シーズンもインフルエンザワクチンの安定供給に努めていただきたい。

## 2 4月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

## 3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	4月分	5月分
		届出日 4/1~5/5	届出日 5/6~5/17 現在
2類	結核	16人 (結核12人、潜在性結核4人)	2人
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1人(4/16)	
4類	A型肝炎		1人(5/9)
	デング熱		1人(5/16)
5類	ウイルス性肝炎		1人(5/10)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		1人(5/7)
	急性脳炎	3人(4/5、4/10、4/23)	1人(5/7)
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1人(4/19)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3人(4/4、4/19、4/23)	
	後天性免疫不全症候群	2人(4/5、4/16)	1人(5/10)
	侵襲性肺炎球菌感染症	7人(4/11、4/15、4/16、4/17、4/22、4/24、4/26)	1人(5/8)
	梅毒	7人(4/1、4/9、4/15、4/22、4/22、4/26、4/26)	4人(5/7、5/8、5/9、5/10)
	百日咳	8人(4/5、4/5、4/18、4/19、4/19、4/24、4/25、4/25)	1人(5/8)
風しん	1人(4/15)	1人(5/6)	

( )は届出日

## 4 その他《公開》

次回開催予定日 令和元年6月17日(月) 14階第7会議室

### 【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：4月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、4月は1,335人で、前月比0.62と減少した。

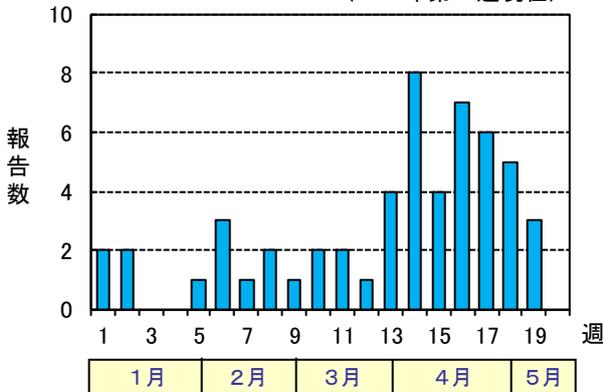
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)は大きく増加、咽頭結膜熱は増加、水痘はやや増加、RSウイルス感染症はほぼ横ばい、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、伝染性紅斑、突発性発しんはやや減少、インフルエンザは大きく減少した。

(2) 特記事項

- ロタウイルスによる感染性胃腸炎の報告が続いており、第19週(5月6日～5月12日)は3人(定点当たり0.43人)の報告があった。例年、乳幼児を中心に、3月から5月にかけて多くなるため、保育園などの集団生活の場では特に注意が必要である。オムツの適切な処理、手洗いなど感染予防対策を徹底し、感染拡大を防止することが重要である。
- 梅毒の今年の累積報告数は、5月12日現在、30件となった。内訳は、男性20件、女性10件で、20～40代が76.7%を占めている。感染が疑われる症状がみられた場合には、早期に医療機関を受診し、治療を受けることが重要である。なお、広島市では、保健センターにおいて無料・匿名の梅毒検査を実施している。
- 風しんの今年の累積報告数は、5月12日現在、13件となった。全国的に風しん患者の報告が続いており、引き続き注意が必要である(2019年第1～19週の累積報告数は1,486件)。また、先天性風しん症候群が第4週に1件(埼玉県)、第17週に1件(東京都)報告されている。感染拡大の防止には、ワクチン接種の徹底が最も重要であり、定期接種対象者(1歳児、小学校入学前1年間の幼児)は早めに接種することを推奨する。また、過去に風しんにかかったことがなく、予防接種を受けていない場合は、予防接種の検討が必要である。なお、広島市では、国の方針に基づき、成人男性に対する風しんの抗体検査及び予防接種事業を4月から実施している。

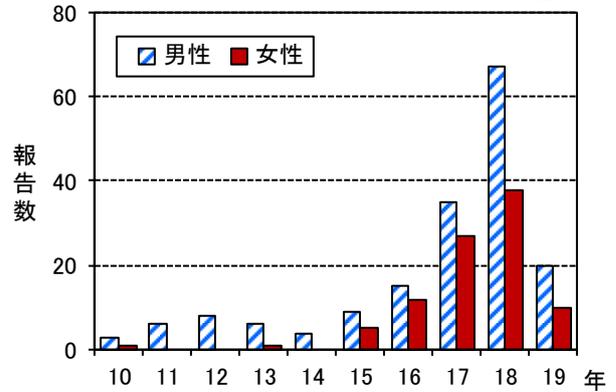
基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)報告数

(2019年第19週現在)



広島市における梅毒の年間報告数の推移

(2019年5月12日現在)



(3) 4月の1類～5類感染症(全数報告)患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 16件(患者：12件、潜在性結核：4件)
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1件
- 4類感染症：なし
- 5類感染症：急性脳炎 3件 クロイツフェルト・ヤコブ病 1件  
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3件 後天性免疫不全症候群 2件  
侵襲性肺炎球菌感染症 7件 梅毒 7件  
百日咳 8件 風しん 1件

(4) 今後の流行予測

感染性胃腸炎・・・【流行終息傾向】

## 2 検査情報

4月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数	
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H3)型	2019年 1月	1人	
	インフルエンザウイルス A(H3)型	2019年 2月	2人	
	*1 インフルエンザウイルス A(H3)型	2019年 2月	1人	
	*1 ライノウイルス			
	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009型	2019年 3月	1人	
	インフルエンザウイルス A(H3)型	2019年 3月	8人	
	*2 インフルエンザウイルス A(H3)型	2019年 3月	1人	
	*2 レオウイルス			
	コクサッキーウイルス A5型	2019年 3月	1人	
RS ウイルス感染症	*3 RS ウイルス	2019年 1月	1人	
	*3 ライノウイルス			
咽頭結膜熱	アデノウイルス 1型	2019年 2月	1人	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	*4 A群溶血性レンサ球菌 T1型	2019年 1月	1人	
	*4 インフルエンザウイルス A(H1N1)2009型			
	A群溶血性レンサ球菌 T1型	2019年 3月	1人	
	RS ウイルス	2019年 3月	1人	
感染性胃腸炎	A群ロタウイルス	2019年 2月	1人	
	ノロウイルス GⅡ	2019年 3月	1人	
	A群ロタウイルス	2019年 3月	2人	
ヘルパンギーナ	*5 パレコウイルス 3型	2019年 3月	1人	
	*5 ライノウイルス			
流行性角結膜炎	アデノウイルス 54型	2019年 2月	1人	
	アデノウイルス 37型	2019年 3月	1人	
	アデノウイルス 56型	2019年 3月	1人	
その他の呼吸器疾患 (下気道炎)	RS ウイルス	2019年 3月	1人	
	(上気道炎)	*6 アデノウイルス 1型	2019年 3月	1人
		*6 ライノウイルス		
	(気管支炎)	*7 ヒトコロナウイルス NL63	2019年 3月	1人
	*7 ヒトボカウイルス			
その他の発疹性疾患 (発疹症)	アデノウイルス 3型	2018年 12月	1人	
	パレコウイルス 3型	2019年 3月	2人	
	ヒトヘルペスウイルス 6型	2019年 3月	1人	

\*1～7：複数病原体検出例

35人の患者から17種類のウイルス40株及び1種類の細菌2株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルスA(H3)型13株、ライノウイルス4株、RSウイルス、パレコウイルス3型及びA群ロタウイルス各3株、アデノウイルス1型及びインフルエンザウイルスA(H1N1)2009型各2株、アデノウイルス3型、同37型、同54型、同56型、コクサッキーウイルスA5型、ノロウイルスGⅡ、ヒトコロナウイルスNL63、ヒトヘルペスウイルス6型、ヒトボカウイルス及びレオウイルス各1株であった。検出細菌の内訳は、A群溶血性レンサ球菌T1型2株であった。

5類感染症定点情報  
(平成31年4月解析分)

1. 週報対象(第14週～第18週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		214	6.41		10	流行性耳下腺炎		5	0.22	
2	咽頭結膜熱		27	1.20		11	RSウイルス感染症		66	3.06	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		247	11.11		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎		584	26.06		13	流行性角結膜炎		11	2.26	
5	水痘		35	1.68		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		21	1.07		15	無菌性髄膜炎		2	0.28	
7	伝染性紅斑		31	1.39		16	マイコプラズマ肺炎		3	0.42	
8	突発性発しん		30	1.34		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		2	0.08		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		30	4.28	

2. 月報対象(4月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		31	3.44
2	性器ヘルペスウイルス感染症		13	1.44
3	尖圭コンジローマ		4	0.44
4	淋菌感染症		15	1.67
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		22	3.14
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		5	0.71
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(平成31年4月分)

第14週～第18週(4月1日～5月5日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国		
		報告数	累積	報告数	累積	
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-	
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	
	3 痘そう	-	-	-	-	
	4 南米出血熱	-	-	-	-	
	5 ペスト	-	-	-	-	
	6 マールブルグ病	-	-	-	-	
	7 ラッサ熱	-	-	-	-	
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-	
	9 結核	16	62	1,955	6,752	
	10 ジフテリア	-	-	-	-	
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-	
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	2	2	
	16 細菌性赤痢	-	-	3	30	
	17 腸管出血性大腸菌感染症	1	1	94	350	
	18 腸チフス	-	-	6	13	
	19 パラチフス	-	-	5	9	
四類	20 E型肝炎	-	1	52	164	
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-	
	22 A型肝炎	-	4	42	156	
	23 エキノコックス症	-	-	1	3	
	24 黄熱	-	-	-	-	
	25 オウム病	-	-	1	9	
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-	
	27 回帰熱	-	-	-	-	
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-	
	29 Q熱	-	-	-	-	
	30 狂犬病	-	-	-	-	
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	1	
	32 サル痘	-	-	-	-	
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-	
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	8	14	
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-	
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	
	38 炭疽	-	-	-	-	
	39 テクングニア熱	-	-	-	2	
	40 つつが虫病	-	-	7	48	
	41 デング熱	-	1	28	99	
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-	
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-	
	45 日本紅斑熱	-	-	9	16	
	46 日本脳炎	-	-	-	-	
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	
	48 Bウイルス病	-	-	-	-	
	49 鼻疽	-	-	-	-	
	50 ブルセラ症	-	-	-	1	
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	
	53 発しんチフス	-	-	-	-	
	54 ポツリヌス症	-	-	-	1	
	55 マラリア	-	-	3	12	
	56 野兔病	-	-	-	-	
	57 ライム病	-	-	-	-	
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
	60 類鼻疽	-	-	-	-	
	61 レジオネラ症	-	5	109	436	
	62 レプトスピラ症	-	-	2	3	
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
	五類	64 アメーバ赤痢	-	1	90	298
		65 ウイルス性肝炎	-	2	21	103
		66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	1	155	613
		67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	5	18
		68 急性脳炎	3	10	61	380
		69 クリプトスポリジウム症	-	-	2	6
		70 クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2	15	51
		71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	4	81	317
		72 後天性免疫不全症候群	2	4	99	379
		73 ジアルジア症	-	-	3	12
		74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	51	214
		75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	4	19
		76 侵襲性肺炎球菌感染症	7	16	398	1,331
		77 水痘(入院例に限る。)	-	-	41	139
		78 先天性風しん症候群	-	-	1	2
		79 梅毒	7	26	554	2,052
		80 播種性クリプトコックス症	-	1	11	48
		81 破傷風	-	-	10	22
		82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	6	28	
84 百日咳		8	23	1,350	5,337	
85 風しん		1	11	322	1,434	
86 麻しん		-	-	89	467	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	2	12	